

スポーツ雪合戦

1 活動のねらい

冬季の代表的な遊び「雪合戦」を通して、冬の遊びに親しむとともに、仲間と協力して関わる姿勢や思いやりを育てます。

2 育てたい能力

B2 自然への関心 A2 積極性 A4 交友・協調 B4 思いやり

※Aは心理的・社会的能力 Bは徳育的能力 Cは身体的能力 詳細は別紙参照

3 活動場所

- ・プレイホール

4 活動時期

12月～2月 冬季

5 所要時間

2時間～3時間

6 指導形態

団体の引率者が指導者となって行う活動

7 準備物

【団体・個人で準備するもの】

- ・活動に適した服装 ・手袋 ・上靴

【自然の家で貸し出しできるもの】

- ・ヘルメット ・ボール ・フラッグ ・シェルター ・シャトー ・電子ホイッスル ・ビブス

8 活動の手順

(1) 事前

スポーツ雪合戦（花山ルール）の内容をご確認ください。※参考

(2) 活動

①人数確認、服装の点検、健康状態のチェックをします。



②準備ができれば、職員を呼んでください。職員が準備の説明をします。



③用具と備品の準備をします。



④安全を確認しながら試合をします。



⑤後片付けをします。

※安全のため職員を呼んでください。

⑥自然の家事務室に活動終了の報告をし、借用物品を返却します。

(破損等があればご連絡ください。)

9 留意点

- 健康観察、準備運動を十分に行ってください。
- こまめに服の着脱を行い、体温を調整してください。
- シェルターやシャトーの準備には、大人の力が必要です。(4人以上)
- 活動に使用した道具は、責任をもって返却してください。
- 活動終了後に、かならず**点呼**をとり、**人数の確認**を行ってください。

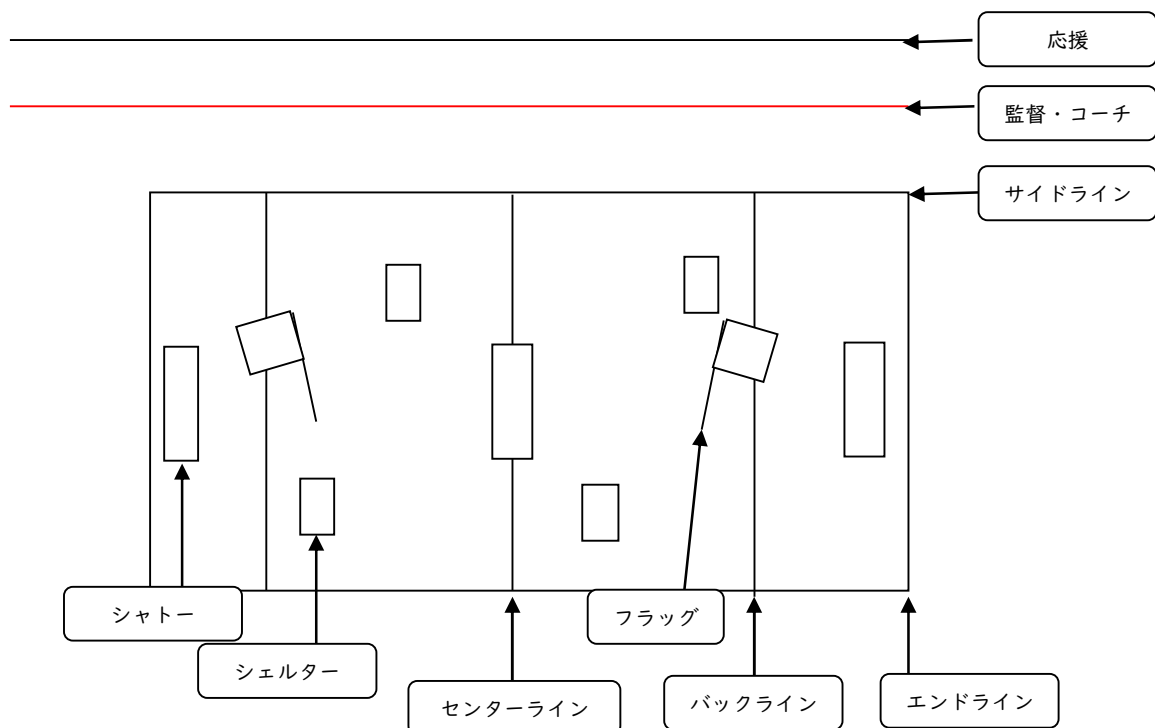
10 参考

◆スポーツ雪合戦(花山ルール) 競技規則◆

(日本雪合戦連盟競技規則より抜粋、花山雪合戦交流会オリジナルルール適用)

【コート】

- コートの基準は次のとおりとする。



【ルール】

(チーム編成の例)

- ・監督1名 ・コーチ1名 ・選手8名 (フォワード4名・バックス4名)
補欠4名をおくことができます。

(競技時間・セット)

- ・1セット3分間の3セットマッチ，2セット先取した時点で終了。

(雪球)

- ・使用できる雪球は1セット60個です。自陣後方のシャトーの後ろに設置してください。
- ・雪球は室内用のボール(赤色、青色)を使用します。
- ・フラッグと同じ色のボールしか投げられません。間違って投げた球は無効です。

(競技者の役割・範囲)

- ・フォワード～自コートバックラインより前のみで競技します。
- ・バックス ～コート全てを使うことができます。
- ・競技者がセンターラインをこえて同時に相手コートに入れる人数は3名以内。

(用具)

- ・ヘルメットは、雪合戦専用の物を着用します。(※自然の家で準備します。)
- ・選手はビブスを着用します。(※自然の家で準備します。)

(競技開始)

- ・2個以内のボールを持ち、バックライン上に整列します。主審の合図で開始します。

(競技者のアウト)

- ・投げられたボールが、直接着衣・体に触れたとき。(味方からのパスも含む、ワンバンドやシエルターにあたったボールはアウトになりません。)
- ・サイドライン、エンドラインを踏み越えたとき。
- ・体の一部がコート外に出たとき。
- ・コート外のボールに触れたとき。
- ・フォワードが、自コートのバックラインを超えたとき。
- ・無効なボール(アウト競技者から受け取ったもの、コート外にあるボール、コートの外から入って来たボール)を使用したとき。
- ・競技中、ウェア等にボールを隠し持っていたとき。

(勝敗の決定)

- ・時間内に相手チームのフラッグを抜いたチームを勝ちとします。
- ・時間内に相手チームの競技者全員をアウトにしたチームを勝ちとします。
- ・時間内に勝敗が決定しないときは、コート内に残った人数の多いチームの勝ちです。
- ・センターラインを超えて相手コートに4人目の選手が入ったチームは、負けとなります。
- ・上記において勝敗が決しない場合は、引き分けとなります。

(競技者の交代)

- ・交代はセット間のみ行うことができます。(何度もできます。)
- ・試合中に負傷退場した場合は、代替選手を補充することができます。

(ボールの受け渡し)

- ・直接手渡しで行うか、コート上に置いたり転がしたりして行います。
- ・シエルター、シャトーの上に置き行います。
- ・投げて渡すことはできません。(投げたボールを受け取った人はアウトになります。)